

2020年度 看護専門実践研修(アセスメント・看護実践コース & 緩和ケアコース) 年間スケジュール

日時	9/3(木) 10:00~12:00	9/28(月)9:00~12:00	10/26(月)9:00~12:00	11/9(月)9:00~12:00	12/14(月)9:00~12:00	1/25(月)9:00~12:00	2/22(月)9:00~12:00	個人作業 (2011年1月)	個人作業 (2011年2月)	(2011年3月) 後日連絡
アセスメント・ 看護実践コース	テーマ 講義 バイタルサインの基本と フィジカルアセスメント① ・バイタルサインとは ・気道の評価 ・呼吸の評価	講義 バイタルサインの基本と フィジカルアセスメント② ・循環の理解 ・ショックとは ・意識の評価	講義 検査値からのアセスメント① ・血液の基本 ・赤血球とヘモグロビンの異常と看護 ・白血球の異常と看護 ・血小板と凝固	講義 検査値からのアセスメント② ・生化学検査の理解と看護 ・凝固検査の理解と看護	講義 画像からのアセスメント① ・胸部レントゲンの読解 ・腹部レントゲンの読解 ・画像から看護につなげる	講義 画像からのアセスメント② ・腹部CTの読解 ・頭部CTの読解 ・画像から看護につなげる	実習 フィジカルアセスメント、 検査データ、画像データ から病態を把握し、ケア を展開する 今後の病態予測を立てる	事後の課題抽出 実践計画書提出期 日 1月30日(土曜日)	*研修指導者は、2月中旬までに実践計画書内容の確認をし、受講者へ返信する。 受講者は、実践計画書を各施設の上長へ提出する。	(2011年3月) 後日連絡
	ねらい 1)人体における解剖と生理機能を理解し、その指標とされるバイタルサインの理解を深める。 2)正常な気道と呼吸を理解する。 3)気道と呼吸の異常を理解する。	1)人体における解剖と生理機能を理解し、その指標とされるバイタルサインの理解を深める。 2)循環と意識の評価方法を獲得する。 3)ショックの原理を学習しショックを見抜くアセスメント能力を獲得する。	1)血算検査で得られるデータを理解する。 2)赤血球、白血球、血小板の基本を理解し、各種データの読解力をつける。 3)検査値から看護展開につなげるアセスメント能力をつける。	1)生化学検査で得られるデータの意味を理解する。 2)生化学と凝固の血液検査の基礎を理解し血液検査データの読解力を獲得する。 3)検査値から看護展開につなげるアセスメント能力を獲得する。	1)画像を確認し正常と異常を理解する。 2)画像と患者の病態を関連付けて理解する。 3)画像のアセスメントから看護展開が行える①。	1)画像を確認し正常と異常を理解する。 2)画像と患者の病態を関連付けて理解する。 3)画像のアセスメントから看護展開が行える②。	1)学習内容を振り返りながら、実際の患者から情報を収集する。 2)得られた情報をまとめ、統合されたヘルスアセスメントを行なう。 3)ヘルスアセスメントの結果から看護ケアを展開する。			
日時	9/3(木) 10:00~12:00	10/9(金) 9:00~12:00	10/29(木) 9:00~12:00	11/19(木) 9:00~12:00	11/30(月) 9:00~11:30	12/26(土) 9:00~12:00	1/21(木) 9:00~12:00	修講式(成果発表会)に向けて、次年度の実践計画書を作成する。 研修で得た学びや目標達成状況を振り返るとともに、次年度の各領域の実践計画を立案する。	各所属長は、実践計画書内容の確認する。 受講者は、実践計画書(コメント入り)を再度、研修指導者へ提出する。 (完成は2月下旬)	修講式 3/15(月) 予定 (時間未定)
緩和ケアコース	テーマ 講義 エンド・オブ・ライフ・ケア (EOL)における看護 ・EOLの基本的な考え ・EOLを取り巻く状況の変化や現在の課題 ・EOLにある人をアセスメントする ・EOL多職種チームアプローチの必要性 ・EOLを提供する看護師に求められる基本的態度 ・テスト	講義 疼痛マネジメント1 ・痛みとは ・痛みの緩和のバリア ・全人的苦痛(トータルペイン) ・痛みに対する薬物療養 ・痛みに対する薬物療法以外の治療 ・痛みのマネジメントに有効なケア ・痛みマネジメントにおける患者・家族の教育	講義 疼痛マネジメント2 ・前回のおさらい ・実践(グループワーク) ・テスト *実務研修(OJT)	講義 その他症状マネジメント ・身体的(悪心・嘔吐、呼吸困難、倦怠感、食欲不振など) ・精神的(不眠、抑うつ、せん妄) ・社会的(社会保障制度) ・実践(グループワーク) ・テスト *実務研修(OJT)	講義 患者の意思決定を支えるためのコミュニケーション ・EOLにおけるコミュニケーション ・EOLで活用できるコミュニケーションスキル ・EOLにおける意思決定とケア ・EOLにおけるチームコミュニケーション ・ロールプレイ *実務研修(OJT)	講義 EOLにおける倫理的問題 ・EOLで直面する倫理的問題とは ・アドバンス・スケアプランニングについて ・看護倫理に基づくケアの実践 ・文化的配慮 ・テスト *実務研修(OJT)	講義 喪失・悲嘆・死別 臨死期のケア ・喪失・悲嘆・死別とは ・悲嘆のアセスメントとケア ・看護師自身の悲嘆とケア ・臨死期とは ・患者や家族が死を迎える準備を整える ・死が差し迫った時期の特徴 ・看取りの対応 ・テスト *実務研修(OJT)			
ねらい	1)EOLの概念について理解する 2)EOLを提供するために、多職種チームの一員として看護師に求められる役割と基本的態度について考えることができる	1)疼痛マネジメントについて理解する 2)疼痛マネジメントにおける看護師の役割を理解する	1)1で学んだ疼痛マネジメントを踏まえ、アセスメント・実践方法を考えることができる。 2)グループワークで意見を交換することで、患者を多角的にとらえ、知識を深めることができる。 3)テストにて自己の理解の範囲を知ることができる	1)疼痛以外の症状マネジメントについて理解する。 2)症状マネジメントにおける看護師の役割を理解する。 3)グループワークで意見を交換することで、患者を多角的にとらえ、知識を深めることができる。 4)テストにて自己の理解の範囲を知ることができる。	1)EOLにおけるコミュニケーションの重要性を理解できる。 2)コミュニケーションスキルを理解できる。 3)EOLの意思決定における看護師の役割について理解できる。 4)チームコミュニケーションの重要性とその方法を理解できる。 5)ロールプレイにてその技術を疑似体験することができる。	1)EOLにおける倫理的問題を理解することができる。 2)臨床における倫理的問題を振り返ることができる。 3)看護倫理に基づくケアのじっせんについて理解できる。 4)文化的側面のアセスメントを行うために重要となる文化的側面のアセスメントについて理解できる。 5)テストにて自己の理解の範囲を知ることができる。	1)喪失・悲嘆・死別について理解することができる。 2)家族の悲嘆・死別に対するケアの必要性を理解し説明できる。 3)看護師自身の喪失や悲嘆の対処方法が理解できる。 4)臨死期とは何か、また臨死期の患者や家族の全人的ニーズの対応準備が理解できる。 5)臨死期にある患者の身体的特徴と、それに必要なケアは何かを理解できる。 6)見取り時の看護の役割と、必要なケアや留意点を理解できる。 *テストによる理解度確認			

注: 緩和ケアコースの研修者が3名以上の場合、10月および11月に実習日を分ける予定です。

★講師の事情により内容の一部変更がある可能性があります。その際には事前にご連絡いたしますのでご対応よろしくお願ひします。